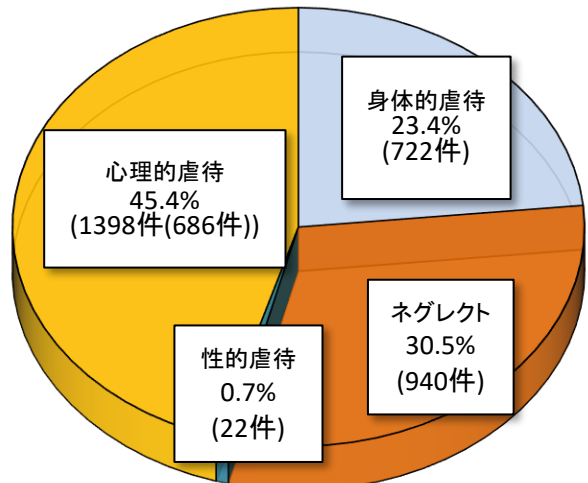


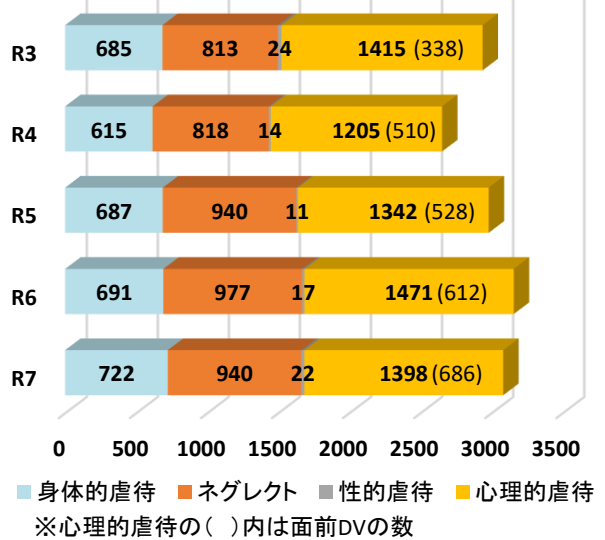
主たる虐待の種類

主たる虐待の種類別件数の内訳



※心理的虐待の（ ）内は面談DVの数

主たる虐待の種類別件数の推移

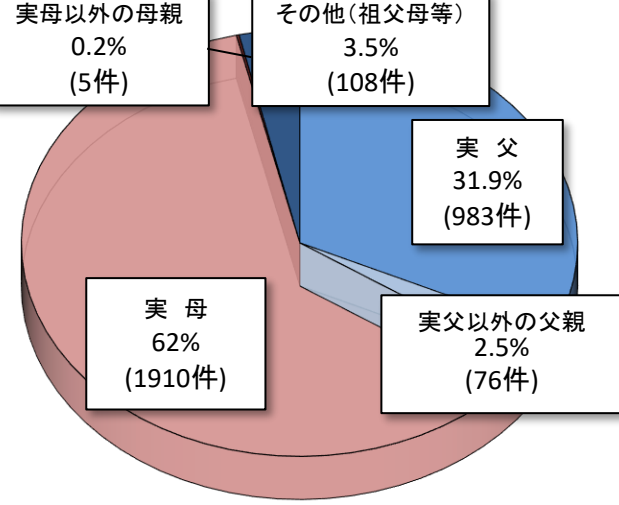


※心理的虐待の（ ）内は面談DVの数

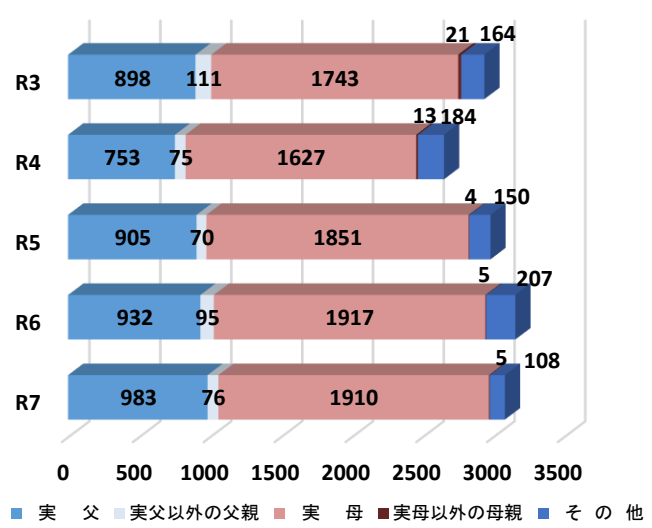
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。令和6年度と比較すると「身体的虐待」が31件増(4.5%増)、「ネグレクト」が37件減(3.8%減)、「性的虐待」が5件増(29.4%増)、「心理的虐待」が73件減(5%減)となった。「心理的虐待」が全体の約半数を占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者

主な虐待者別件数の内訳



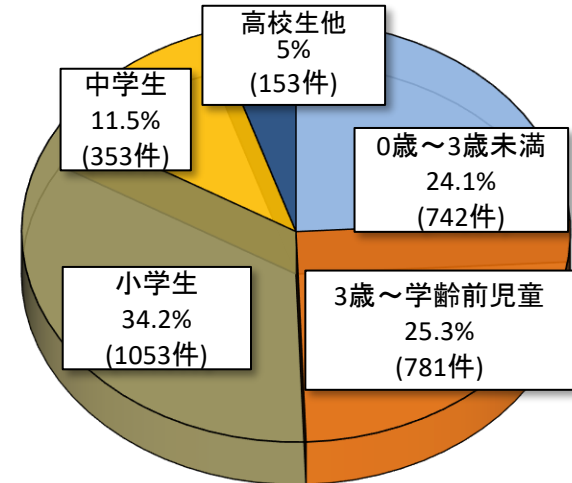
主な虐待者別件数の推移



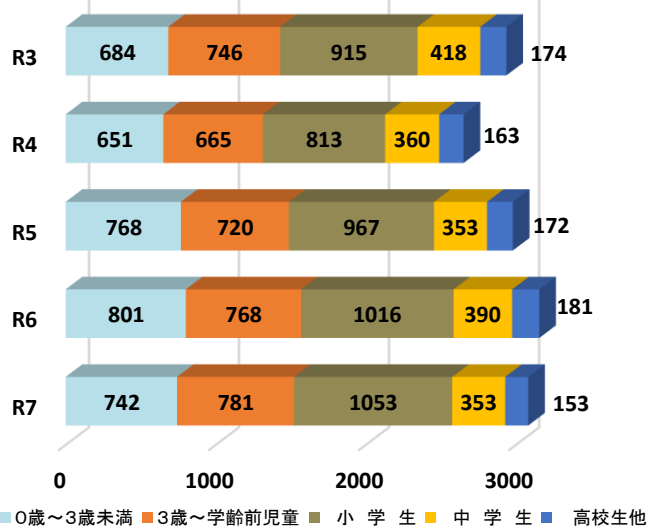
「実母」の件数が最も多く、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が51件増(5.5%増)、「実父以外の父親」が19件減(20%減)、「実母」が7件減(0.4%減)、「その他(祖父母等)」が99件減(47.8%減)となった。傾向については、前年度と同様である。

被虐待児の年齢

被虐待児の年齢別件数の内訳



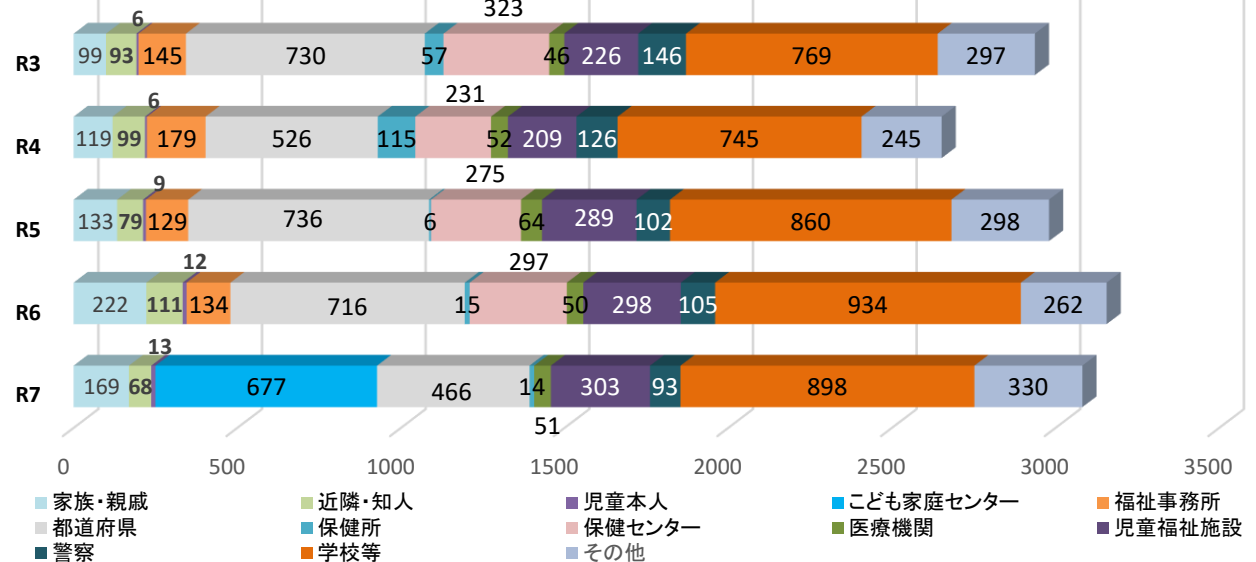
被虐待児の年齢別件数の推移



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が59件減(7.4%減)、「3歳～学齢前児童」が13件増(1.7%増)、「小学生」が37件増(3.6%増)、「中学生」37件減(9.5%減)、「高校生」が28件減(15.5%減)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路

虐待通告の経路別件数の推移



「学校等」「子ども家庭センター」「都道府県」の順に件数が多く、「家族・親戚」が53件減(23.9%減)、「近隣・知人」が43件減(38.7%減)、「学校等」が36件減(3.9%減)となった。(R7年度より国統計項目の変更により、「福祉事務所」、「保健センター」が廃止され、「子ども家庭センター」として計上。またR4～R6年度は「都道府県」として奈良市からの通告件数が計上されていたが、R7年度からは奈良市児童相談所以外からの通告件数は「子ども家庭センター」に計上されている。)